

雅堂公

年上彼女
の

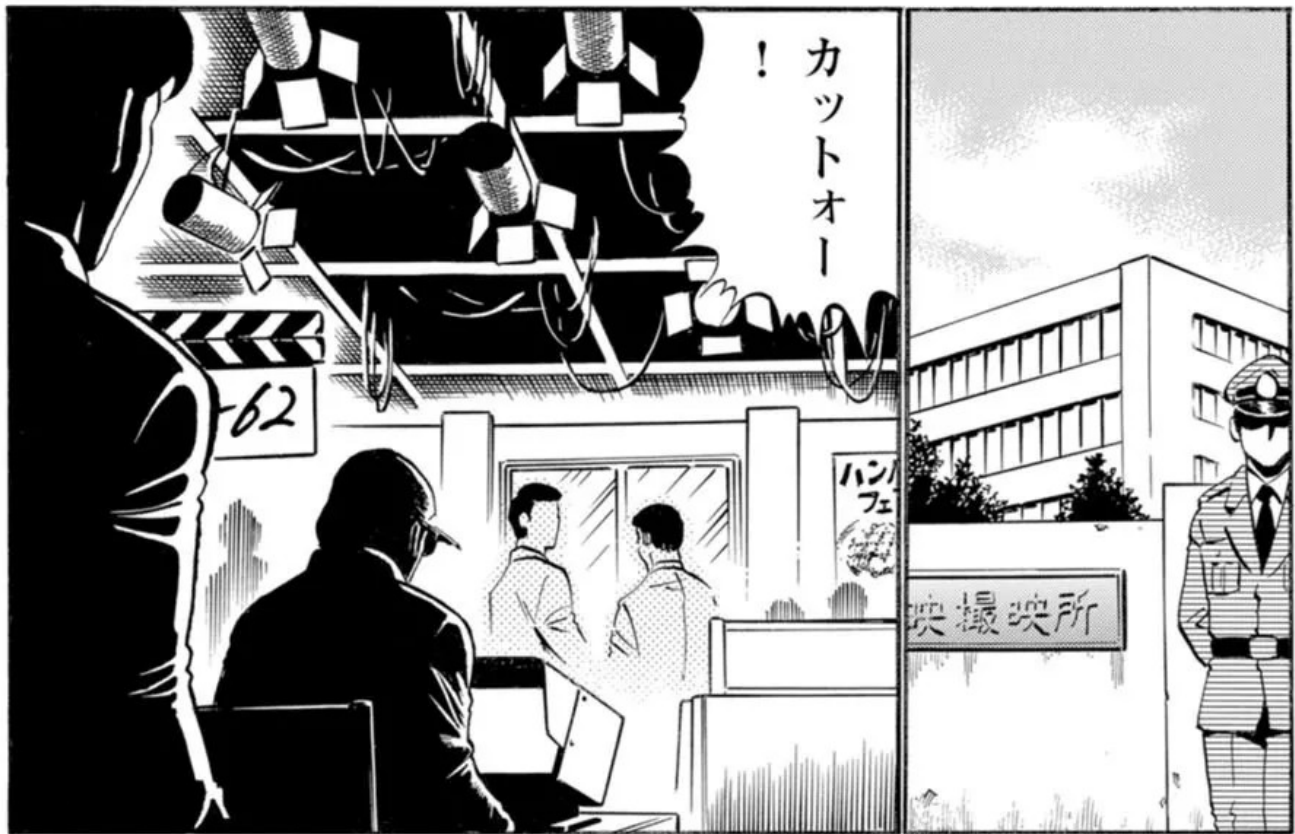
～初恋女性と浮気エッチ

締まるナカ

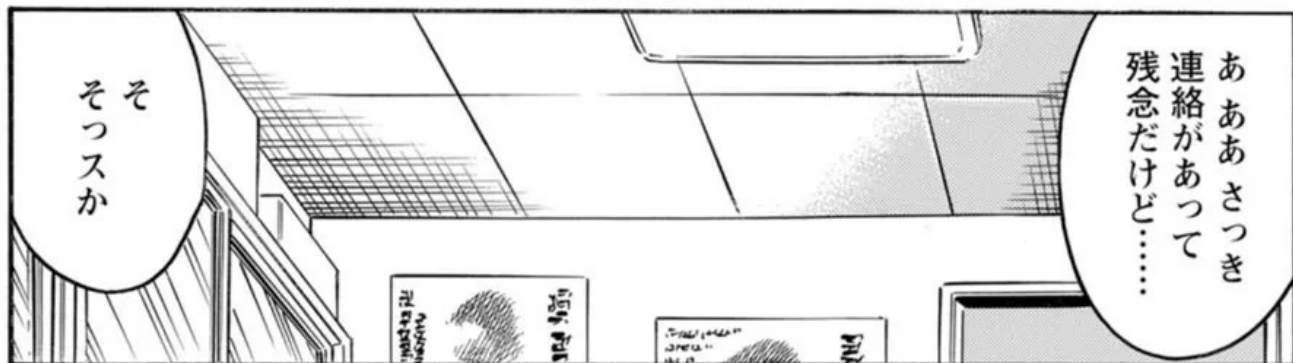
年上彼女の締まるナカ ～初恋女性と浮気エッチ

第1話

















私ずっと
応援してます
から

島田さんは
いつか必ず
ブレイクしますよ



あそれ昨日
森田浩二さん
にも言われた

え!? あの
森田浩二に?
すごい!



あ
ありがとう...

確かに顔も
可愛いけど

この人の声って
すごく耳ざわり
がよくて
好きだな...



どうしようか
その辺の
ファミレスで
始発待つ?



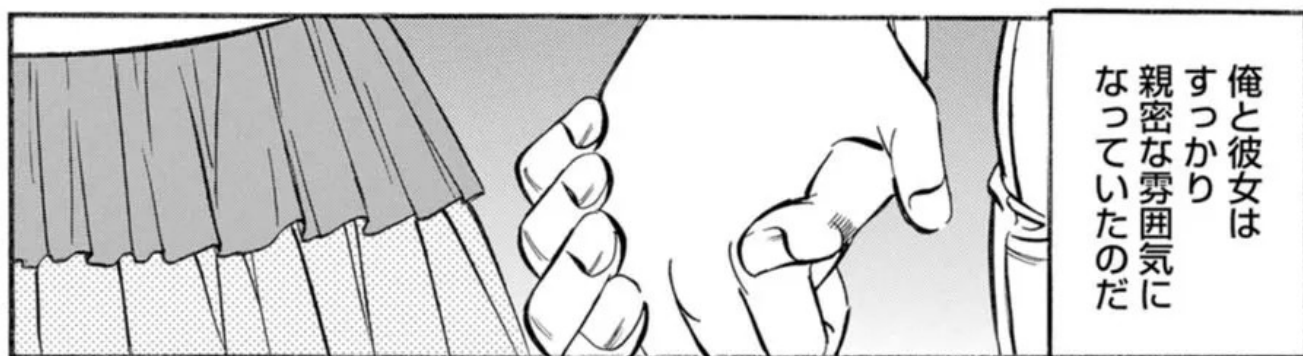
へえー実家
酒蔵なんだ

うん
地元じゃ結構
有名なのよ



どうりで酒が
強いワケだ

その夜は二人して
盛り上がってしまい
気がつけば終電は
とっくにやって
しまった後だった





あん...

あつ

彼女のあげる
切ない喘ぎ声は
.....



これまで聞いた
どんな女性の声
よりも甘く
官能的で...

それが余計に
俺を興奮させた



彼女の熱い
花芯を突くたびに
声があがる

その声が聞きたくて
俺は夢中になって
腰を動かし続け...



ようやく彼女の
カラダから離れたのは
明け方近くになって
からだだった



そっか…
シューサクくんは
まだ23なんだ

ありがと

いいなあ

いいって？

あたしもう25よ
声優はともかく
アイドルっていう
年じゃないもの

大丈夫だよ
マリさん童顔だし
年3つくらい
サバよんでも

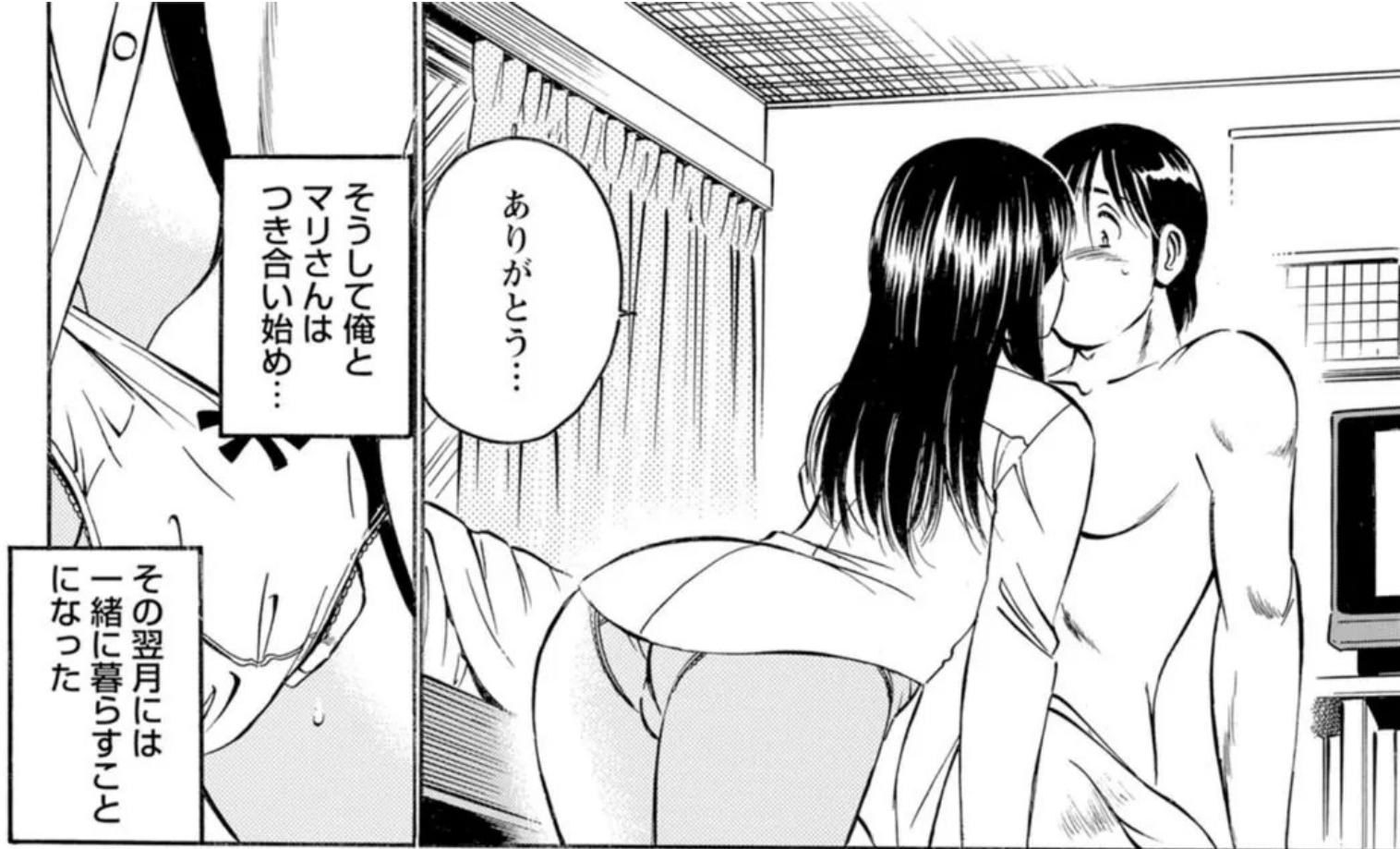
親にも
言われてるのよ
25になっても芽が
出なかったら家に
戻ってこいって

もう少しで主役が
とれそうだからって
ずっとこまかし
続けてきたけど…

…大変なんだ
マリさんも

でも俺
マリさんの声
すごく好きだよ

絶対そのうち
主役とれるって



ありがとう…

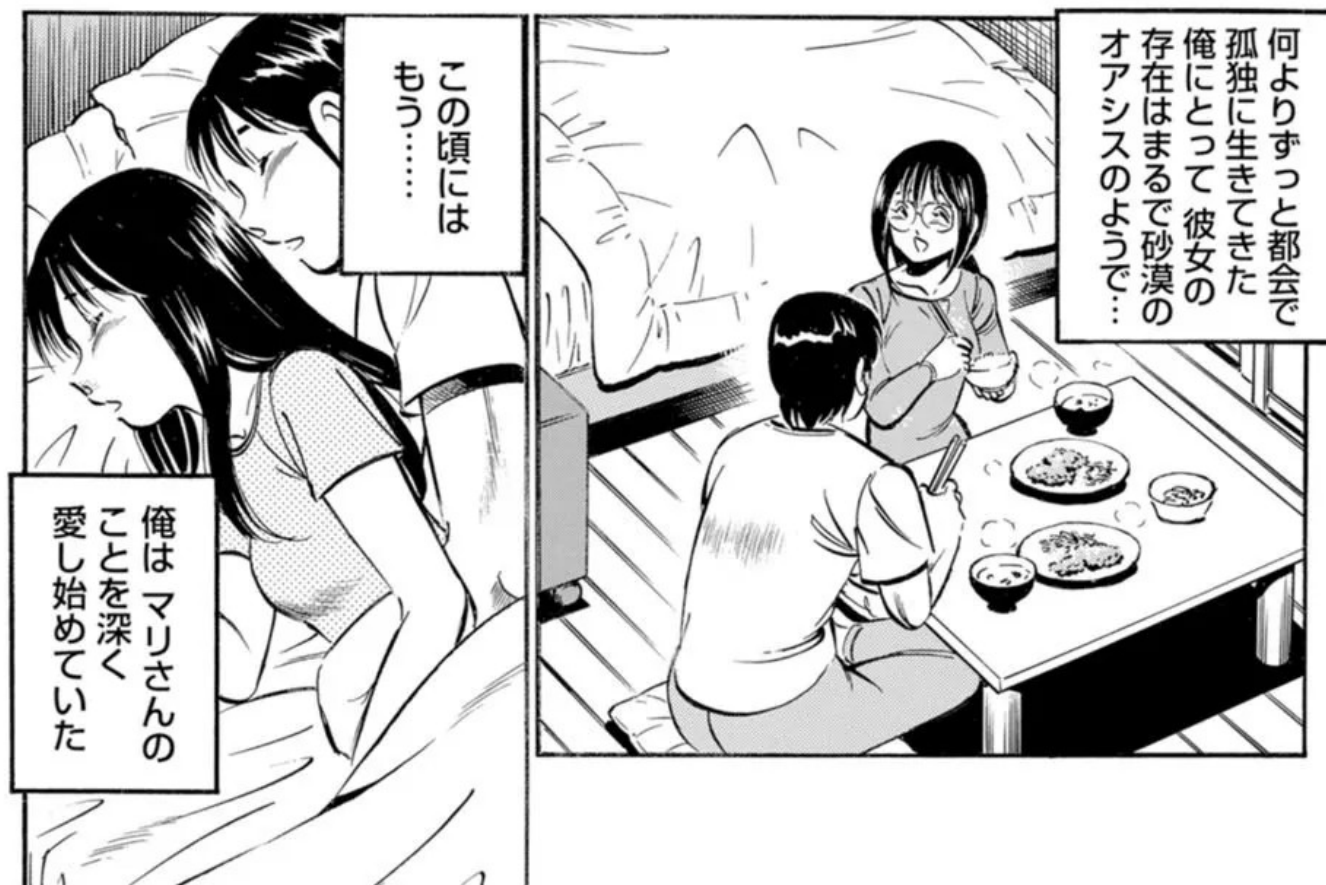
そうして俺と
マリさんは
つき合い始め…

その翌月には
一緒に暮らすこと
になった



一人で暮らすより
二人で暮らす方が
家賃も食費も
安くすむからと
提案したのは
マリさんだった

もちろん
金のない俺に
異存はなかった



何よりずっと都会で
孤独に生きてきた
俺にとって彼女の
存在はまるで砂漠の
オアシスのようで…

この頃には
もう……

俺はマリさんの
ことを深く
愛し始めていた





ちゃんとセリフも
あるんだぜ
3つも

すごい
じゃない！

頑張っ
てね♡

マリさんは
いつも
優しかった



仕事がない時や
失敗した時は
慰め励まして
くれた：

たった
一言のセリフ
3回もNG
出しちゃって

私なんて
しょっちゅうだよ
大丈夫 大丈夫



家事のほとんどを
嫌な顔一つせず
進んでやってくれた

手伝う
って

お互いの夢を語り
合い分かち合い
時には激しくその
温もりを求め合う
……

いいから
シューサクは
座ってて

お金や仕事が
なくても彼女さえ
いてくれれば俺は
それで十分だった







妊娠…
したみたい



翌日



えっ…

ひと月くらい
前から生理が
来なくて…

もしかしたらとは
思ってたけど今日
病院で診てもらっ
たら間違いないって



つわりも始まっ
ちやってる
みたいだし

……
急がなきゃね

い急ぐって
何を？

決まってる
でしょ子供を
堕ろすのよ



な……

何バカなこと
言ってるんだよ
俺たちの子供
だぞ！

産めばいい
じゃないか！
産んで一緒に
育てよう！



結婚しよう
マリさん

少し前から俺
役者辞めること
考えてたから
丁度いい
機会だよ



役者を辞めるって
…何言ってるの
シューサク



ちゃんと就職して
君と子供の面倒を
みるよだから…

やめてよ！
何簡単に夢を
あきらめちゃ
ってるのよ！！

あたしは嫌よ！
やっとチャンスが
巡ってきたのよ！

声優を辞めて
結婚して子供
育てるなんて
絶対に嫌！！



マリさん…

あの優しい
マリさんが…



それにシューサクの
ことは好きだけど
あたし結婚なんて
考えてない

もちろん
子供だってまだ
欲しくないの!!



明日
病院に予約
入れてきたから

…同意書に
サインをして



今まで見たことが
ないほど険しい顔を
して俺を睨んでいた

それは俺が今まで
全く知らなかった
彼女だった

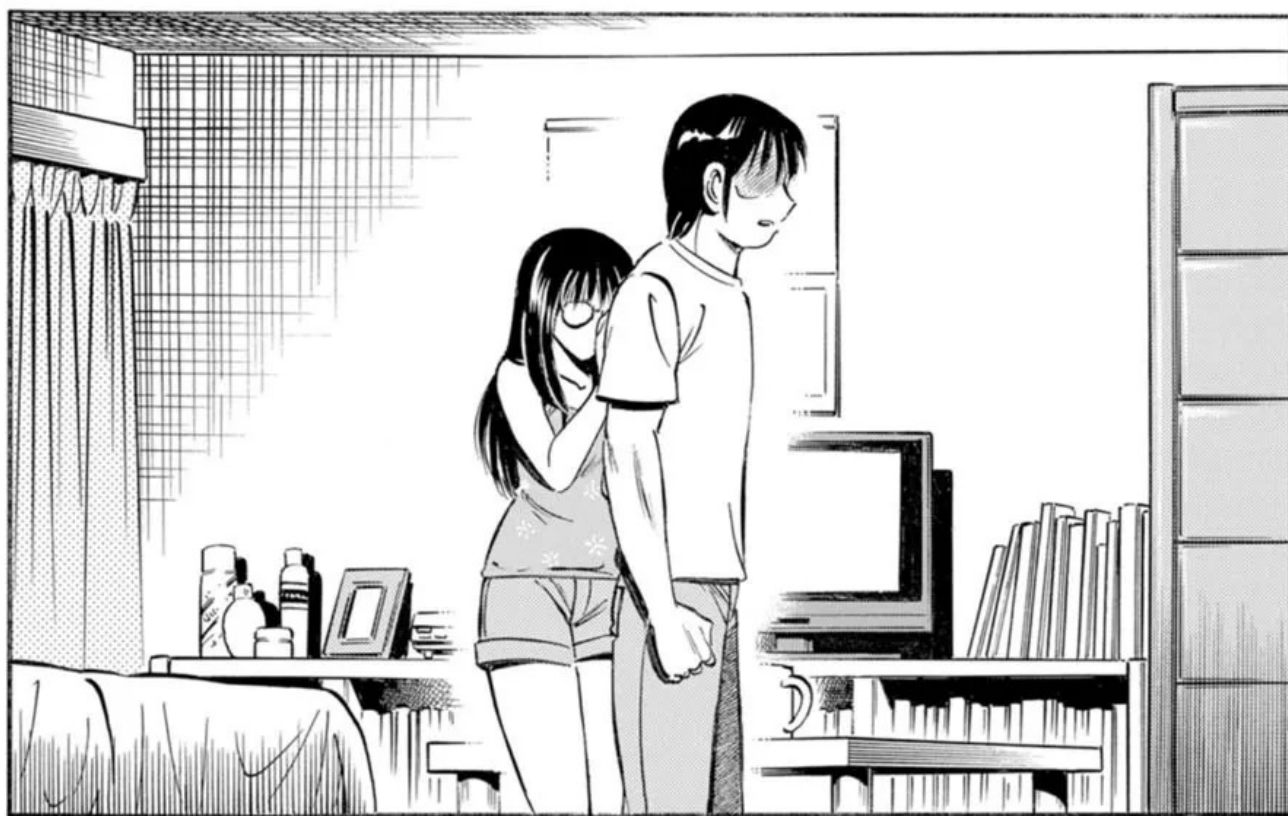


お願いよ
シューサク…

私にとって
何より大事なのは
自分の夢なの



い嫌だ!
俺は絶対
サインなんか
しないからな



翌日
マリさんは
子供を堕ろした

そして俺たちは——
まるであれが
離婚届のサインで
あったかのように
気持ち離れて
しまい……



皮肉なことに
マリさんと別れた後
最後と思って受けた
オーディションに
俺は受かってしまい…

この2年のうちに
連ドラで準主役の
役がもらえる程の
俳優になっていた

島田さん
お願いしまーす

あ
はい

それでも
時折ふと
思うのは

有り得たかも
しれない
もう一つの夢だ

役者を辞め
マリさんと
子供と3人で
平凡だけど幸せに
暮らす現在……

けれど――
今は振り返る
のはやめよう

彼女もきつと心の
どこかで悔やみながら
それでも前だけを見て
夢を追い続けている
のだから……

年上彼女の締まるナカ ～初恋女性と浮気エッチ

第2話



遠い昔の記憶だ

その時
俺の視線の先には
……

一人の女の子がいた



学校帰りにわかに
降り出した雨は
あつという間に
激しい夕立ちになり
……

やむを得ず避難した
軒先にすぐさま
彼女はとび込んできた



彼女は
見知った女の子だった

年はたぶん俺より
3つか4つ上の中学生……

同じ町内に住んでて
時折顔を合わせるが
名前は知らない……





彼女は雨に濡れた身体を
ハンカチでふいている

そして俺は彼女の
その大人びた仕草に
目が吸い寄せられていた



たまに
道で会うよね

何年生？



そっか
4年生か

かろうじてそう
言葉をしほり
出した



よ
4年……

まさか彼女から
話しかけられると思って
いなかった俺は動揺し……



彼女とはその後も
時折顔を合わせることが
あった



あの時のことを覚えて
いるのか目が合うと
彼女は軽く微笑んでくれた



けれど俺はと
いえば……

なぜか彼女の顔が
まともに見られず
うつむいて目をそらす
だけだった



そんなことを
何度かくり返す
うちにやがて
俺は中学生になり
彼女は高校生に……

そして俺が高校生に
なった頃には……



いつの間にか……

彼女を町で
見かけることは
なくなっていた

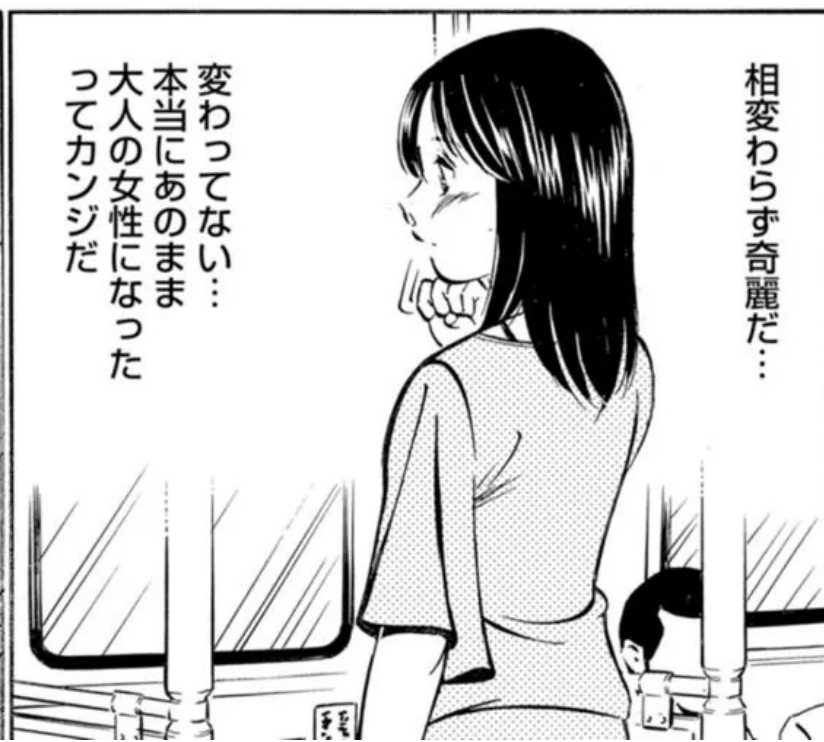


たぶんそれが
俺の初恋……

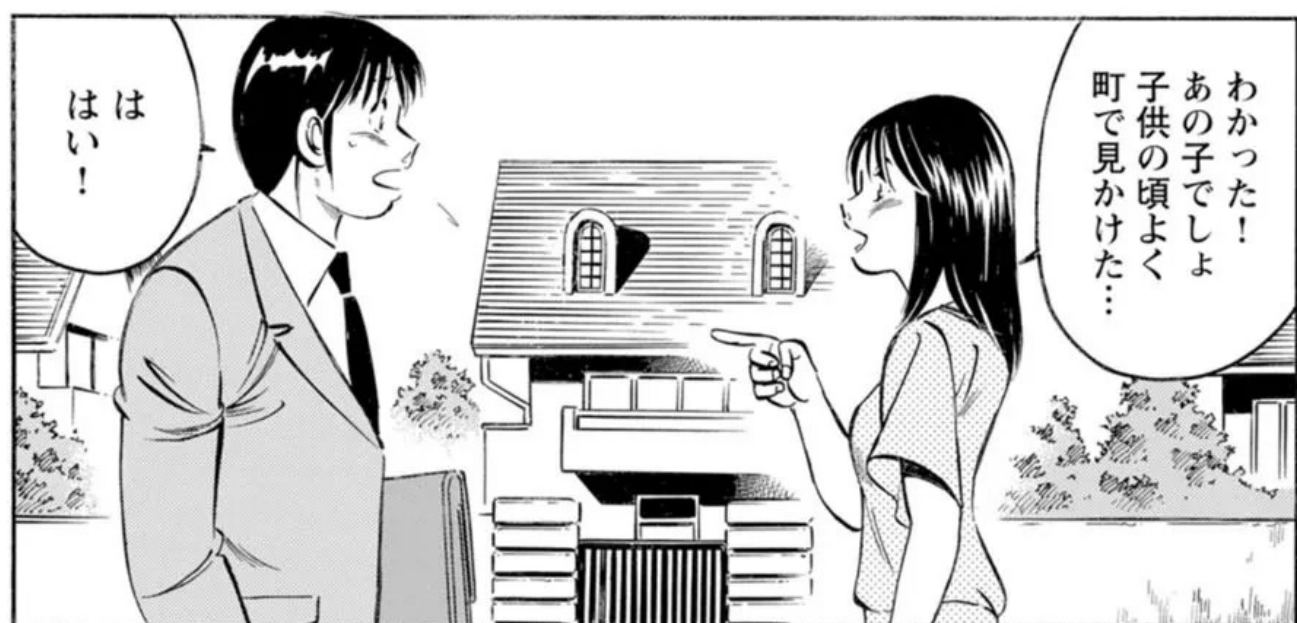
俺が初めて
異性にときめいた
記憶だ



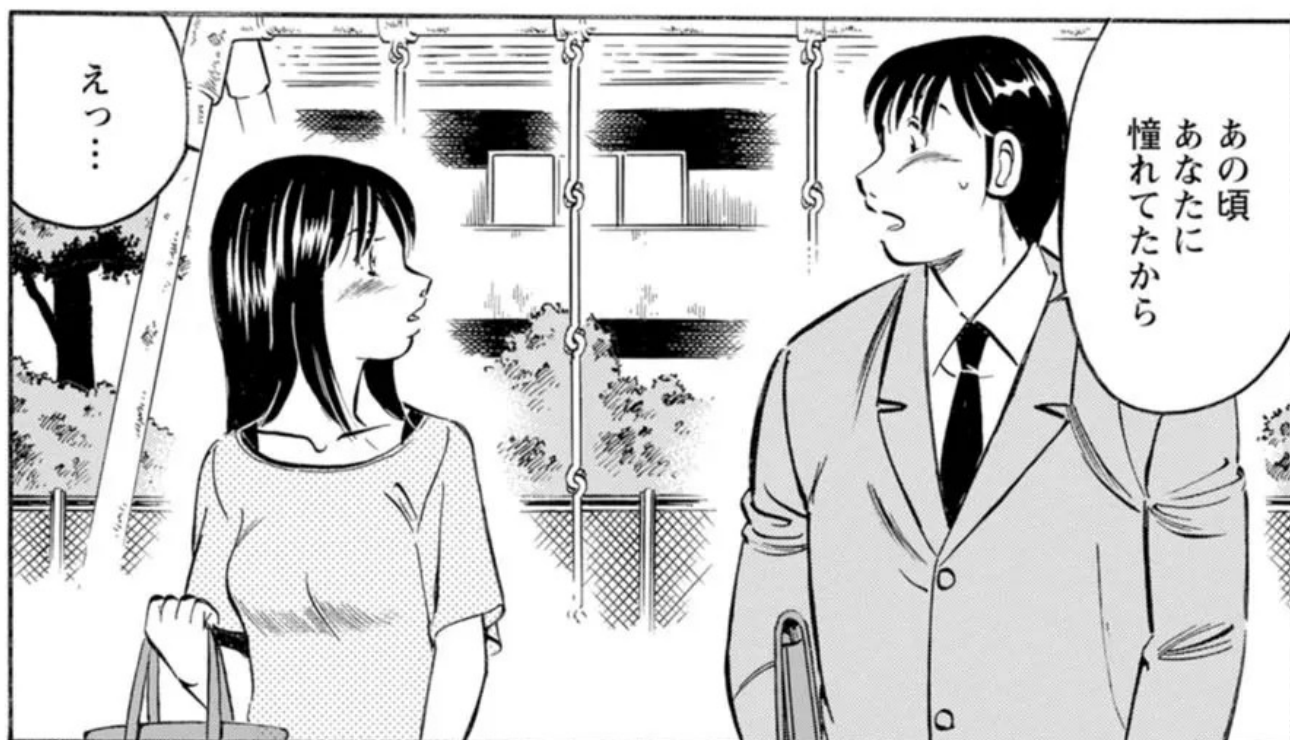
















今でもハッキリ
覚えてる……

雨に濡れた
彼女の制服が透けて
下着が浮かびあがって……

それを見た時
俺はどうしようもなく
息苦しくなって……

可愛かったな
すごく恥ずかし
がり屋の男の子
ってカンジで

でも今は
違うみたいね

え？

だって今日は
あなたの方から
話しかけてきた
でしょ

憧れの女性だった
って言ってもらえて
嬉しかったわ

ああ……

やっぱりあの頃の
面影が残ってる

俺が初めて意識した
年上の女性……

ぎゅっ



随分おませな
小学生ね

……
もう



もう
小学生じゃ
ないです

それに
あなただって
中学生じゃない
美しい大人の
女性だ



ん……

くるおしいほどの激しい
欲望が突如俺の中
から溢れ出した――



ずっと…

そう…

ずっとこうした
かった



ダメよ
こんな…

あつ…



あなたは
全然変わって
ない……

綺麗だ…
景子さん



あの雨の日たぶん
俺は初めて…

初めて女性に
欲情したんだ—







20年分の思いを
彼女の中に^{すべて}全て
吐き出した



私たちは今日
ほんの少し
あの頃に戻って
遊んだだけ

あなたにも私にも
今の生活がある
そうでしょ？



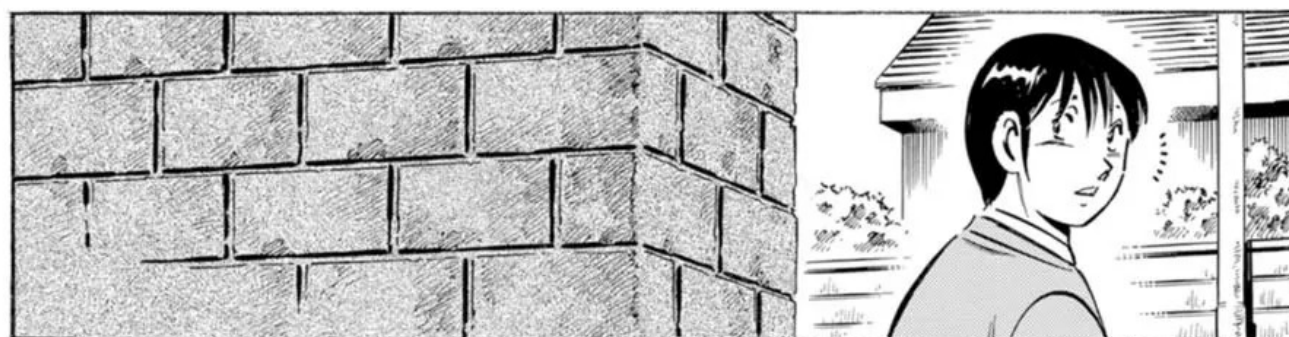
約束して…
これきりに
するって

え……



あなたはあの頃の
ままの目で私を
一人の女として
見てくれた

それが何より
嬉しかったの



年上彼女の締まるナカ ～初恋女性と浮気エッチ

第3話



平凡で平穩な人生にも
時折思いもかけない
ことが起る……

俺にとってまさに
今日がそうだった

どう？
としひこ
利彦さん

気持ち
いい……？

ああ
ああ

最高だ……
唯ちゃん

頭の中でこれはヤバい
いけないことだとわかって
いたが俺の腰は
止まらなかった

あっ

あん！

彼女の名前は
こじま ゆい
小島唯

女房の年の
離れた従妹
だった――

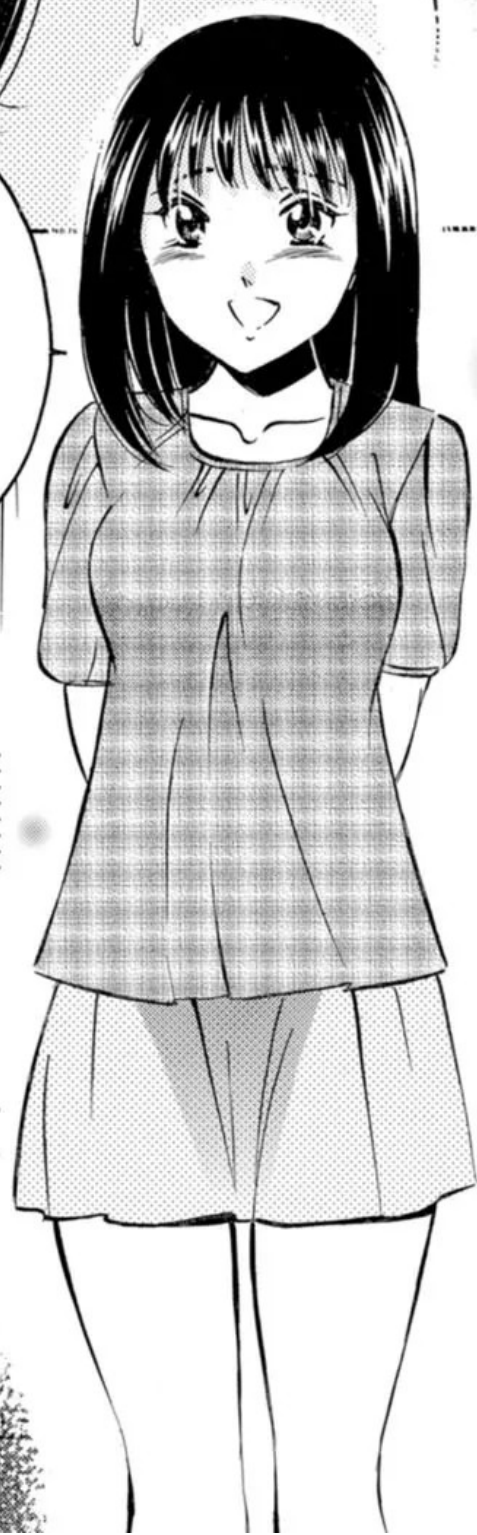
ご無沙汰して
ます利彦さん

い……
いらっしやい

奇麗になったな
唯ちゃん
はっ

彼女がうちに
来たのは2日前
……

来年短大を卒業する
彼女は会社説明会
まわりに都心から
ほど近い我が家に
しばらく滞在する
ことになったのだ









しかし唯ちゃん
すっかり大人の女性に
なったな…

最後に会った時はまだ
中学生だったし

まああの頃から
妙に色気のあるコ
ではあったけれど…

しかし…

印刷会社に
大手スーパ―
運送会社に
パチンコメーカー
って……

希望してる
会社って見事に
バラバラだな

いったい
一体唯ちゃんは
どんな仕事に
就きたいんだい？

就きたいん
じゃなくて
就けそうなトコを
探してるんですよ

ぶっちゃけどうせ
事務しかできないし
どこで働いても一緒
じゃないですか

これだから
今のコは……

あのね唯ちゃん
仕事ってのは…



こーゆー一対一の
個人面接なら
自信あるんだけどな
あたし

え



わかる…このコッて
年の割にどこか男好き
するトコがあるし

そ
そう…



これでも
結構モテる方
なんですよ

しかもなぜか
オジサン
ばかりに







ちよつ…
どうしたの？
いきなり



会社説明会が
この近くであつて
それで利彦さんの
会社が見たくなつて
来ちゃった♡



女房の従妹…俺とはこれまで
あまり面識もなかったのに

やっぱ
大きいなー



こっちに来てからは
妙になつかれてるな…

まさか本当に俺を
誘ってるんじゃない？

仕事は
何時まで？

あああ
あと1時間
くらいかな



じゃあそれまで
その辺で時間
つぶしてるよ

わかった
一緒に帰ろう



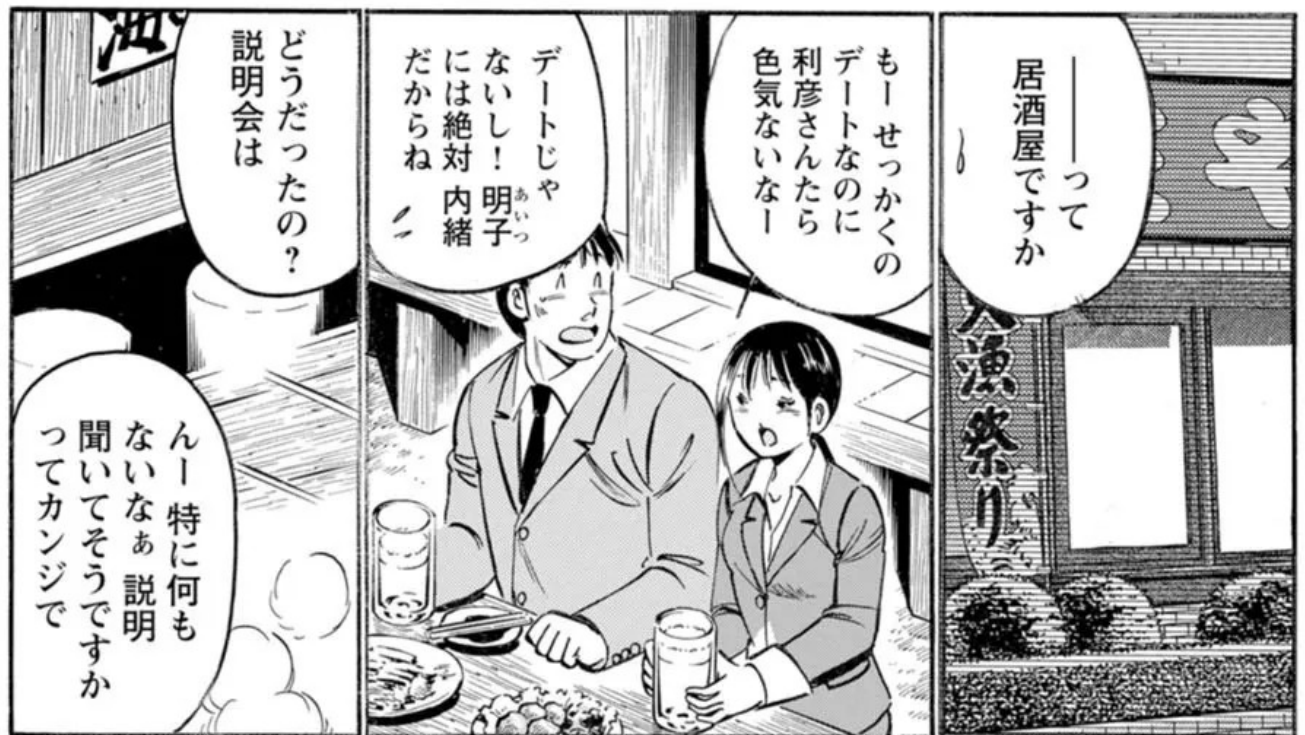
帰ろうって
……

せっかくここまで
来たんだしどこか
飲みにも連れてって
欲しいなあ



えっ…







別に派遣でも
フリーターでも
何でもいいじや
ないか

自分の
向いてそうな
やってみたい仕事を
選んだ方が僕は
いいと思うよ

.....



…ウチの親
なんかさ

どこでもいいから
ちゃんと就職しろ
こっち
東京で無理なら
地元でコネで探して
やるからって



とにかく
世間体
なんだよね…

利彦さんのほうが
全然親身に
なってくれてる

嬉しかった…

そう？

大人だね
利彦さんて





ああ…
唯ちゃん

細くてしなやかで
ポリウムがあつて…

利彦さん…

なんてセクシーで
蠱惑的な身体…!!

まるで熟れた甘い
水蜜桃のようだ

ああん

す
すごい…

こんなとろける
ようなセ●クス…
初めてだ



ゆ
唯ちゃん…

まさにこのコは
男を魅了する
天性の小悪魔…



いい…
利彦さん



あつ

あん

この身体はまさに…

あつ

もっと…激しく
かき回して



んああん
…!!

禁断の果実だ

……!!





いらっしやい
利彦さん♡

なかなか
中々会いに来て
くれなかった
から唯
寂しかったよ

あああ
ごめん



——つと
ここでは麗美
だったつけ

今や彼女は
業界随一のキャバクラの
ナンバー一の売れっコ…



今晚
お店10時に
上がれるから…
ね♡

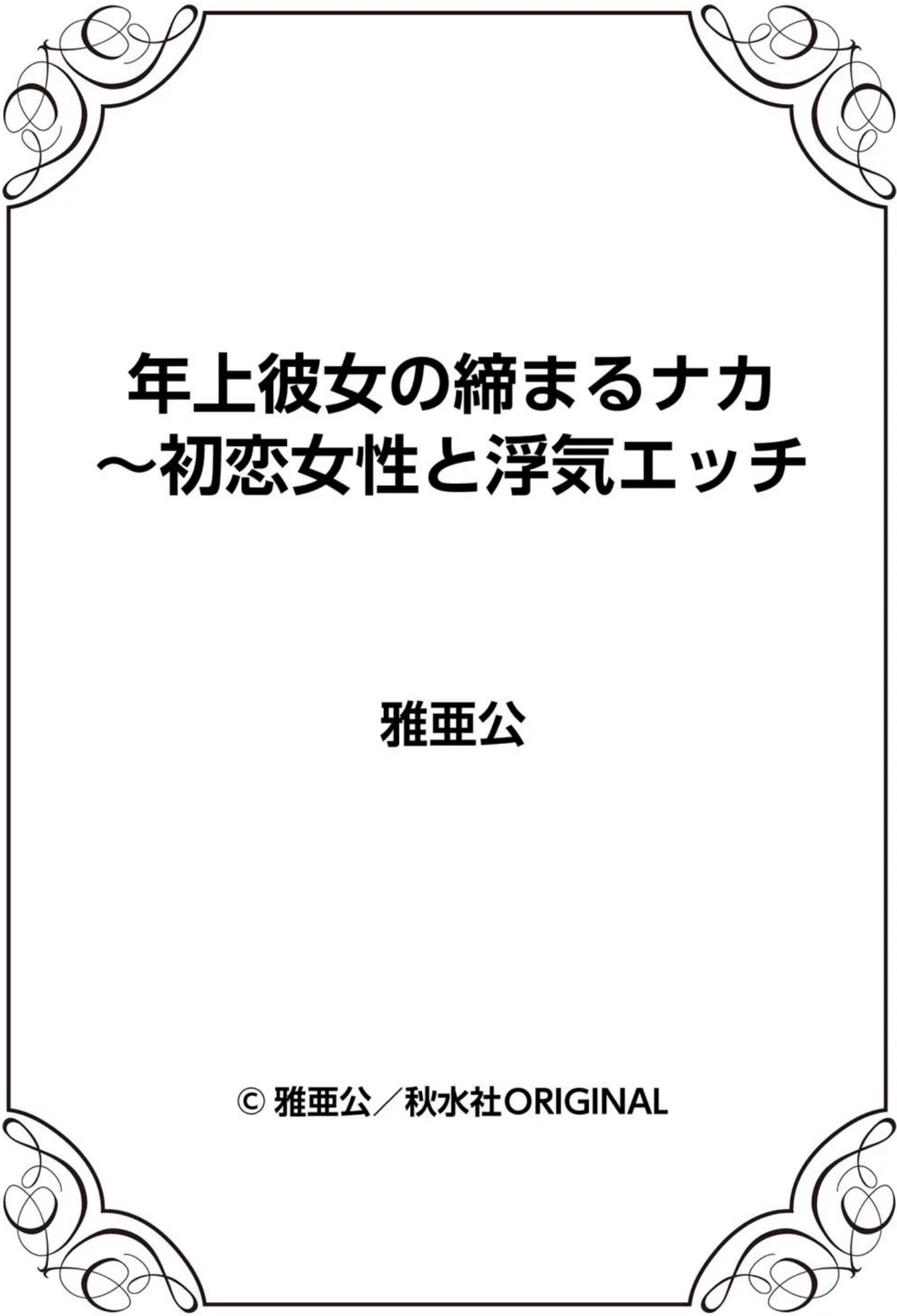
そして俺も…
あの夜から彼女の
魅力に囚われた
ままにいる



数多くの客を転がし
一晩で何十万もの
お金を稼ぎ出す…

まさに彼女にとっては
これが天職だったの
かもしれない

早く
来よう♡



年上彼女の締まるナカ ～初恋女性と浮気エッチ

雅亜公

© 雅亜公／秋水社ORIGINAL